

# 国土幹線道路部会 高速道路料金車種区分見直しについて

令和8年6月10日



公益社団法人 日本バス協会

# 1. バス協会について

## 公益社団法人 日本バス協会



会 長 清水 一郎(株伊予鉄グループ 社長)

事業者会員 2,227事業者(令和7年8月現在)

うち、乗合専業 72 事業者

乗合貸切兼業 834 事業者

貸切専業 1,297 事業者

そ の 他 24 事業者

### 役 割

バスの公益性について広く一般に啓発し、地域交通や地域間交通でのバス輸送サービスの改善と充実を図ることで地域社会の健全な発展に貢献するほか、バス事業者の適正な運営と業界全体の健全な発展の促進に努め、公共の福祉の増進を図る。

# 2. バス事業の現状

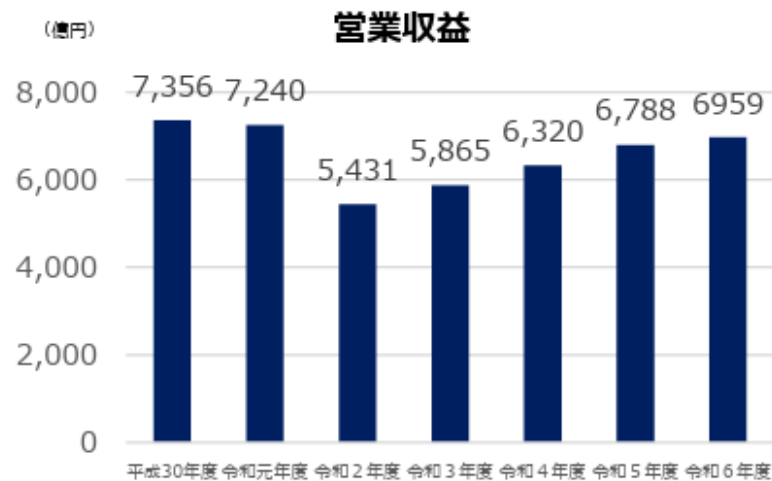
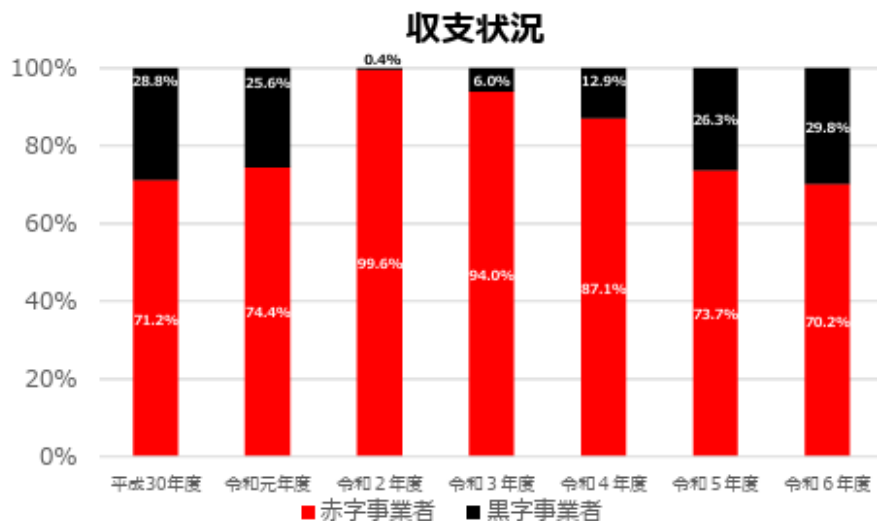
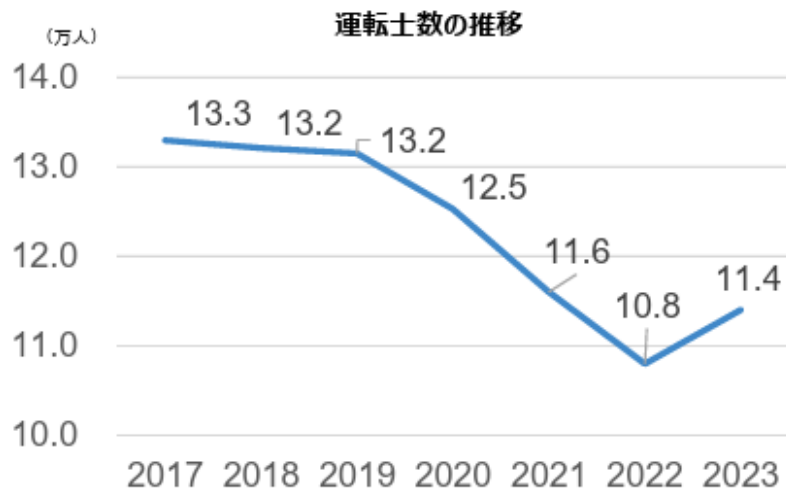
## 1. 収支悪化

- ✓ 人口減やコロナ禍以降の生活様式変更により旅客が減少している。
- ✓ ロシアのウクライナ侵攻や中東情勢の緊迫化に起因した物価高により経費が増加している。

## 2. 運転士不足

- ✓ 深刻な人手不足により、路線バス(高速バス含む)の減便や廃止が相次いでいる。運転士の待遇改善を図っているものの対応が追いついていない。
- ✓ 改善基準告示見直しによる一人あたりの労働可能時間が減り、ネットワーク維持のためにはさらに人手(そのための待遇改善)が必要である。

# 2. バス事業の現状



(出典) 国土交通省物流・自動車局調べ

※「運転士数の推移」は「数字で見る自動車」における乗合バスと貸切バスの運転士数の合計 (2023年6月時点では「数字で見る自動車」は2021年までのデータが掲載)。

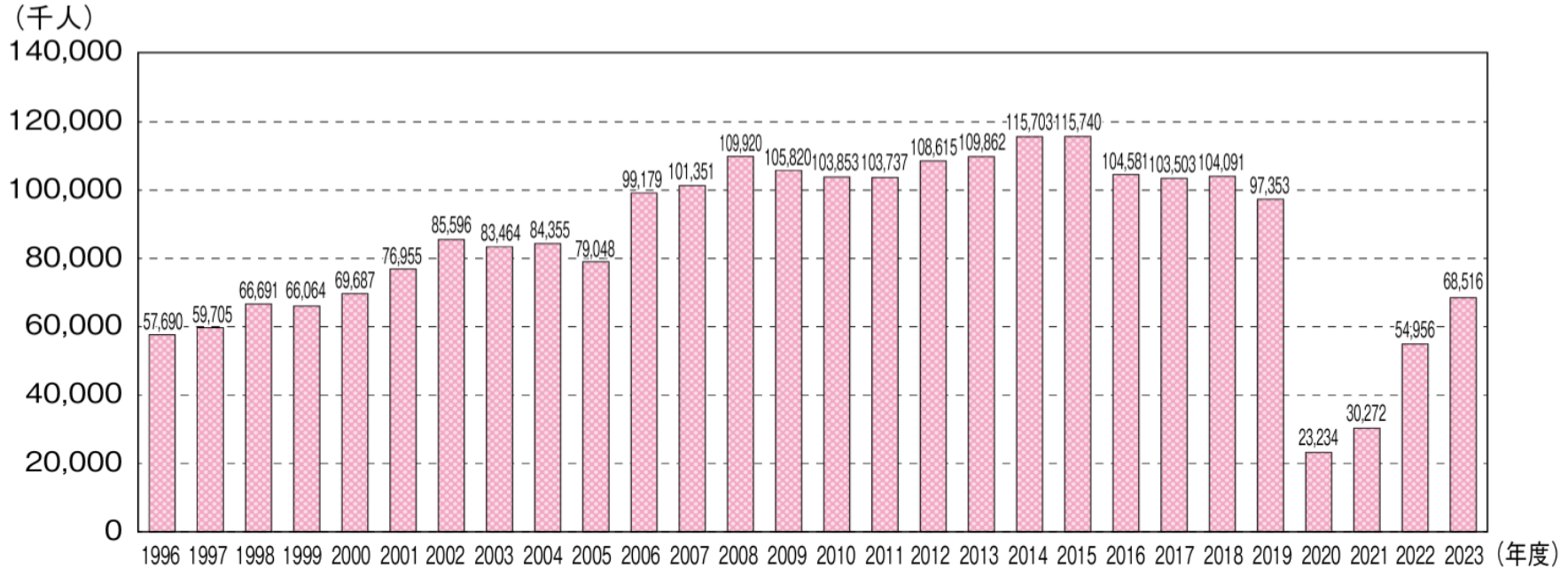
※「収支状況」「営業収益」は、保有車両30両以上の一般路線バス (高速バス及び定期観光バスを除く) が対象

※「営業収益」は運送収入、運送雑収、営業外収入の合計値。

## 2. バス事業の現状

### 高速道路を利用するバス事業

通勤・通学・通院・買い物時などに利用される生活に密接した近距離高速バス、出張・旅行時などに利用される中長距離高速バスは「地域の足」、「観光の足」として全国各地の交通ネットワークを支えており、年間1億人(コロナ禍前)を超えるご利用をいただいている。



資料：2019年度までは国土交通省自動車局調べから、2020年度以降は「自動車輸送統計調査」から国土交通省物流・自動車局作成

# 3. 高速道路車種区分見直しに関する要望

## 要 望

✓ 現行料金の維持

✓ 大口多頻度割引など、  
各種割引制度の維持

車種区分(現行)

対象

軽自動車等

普通車

中型車

(乗車定員11~29人で車両総重量8t未満)

マイクロバス

大型車

(乗車定員30人以上または車両総重量8t以上の路線バス、車両総重量8t以上で乗車定員29人以下かつ車長9m未満のもの)

路線バス

貸切バス(中型)

特大車

(乗車定員30人以上のもの、または車両総重量8t以上で車長9m以上のもの ※路線バス除く)

貸切バス(大型)

➤ 全国各地の交通ネットワークを維持していくため、厳しい経営状況にあるバス事業者の負担増とならないよう、引き続きのご配慮をお願いしたい。

# 【参考】 高速道路を走行する主なバスの車種

## ①大型バス(乗車定員55人)

車両総重量	12.31 t
車長	11.99 m
車幅	2.49 m
車高	3.50 m
主な用途	路線・貸切



※ジェイ・バス(株)HPより

## ②中型バス(乗車定員29人)

車両総重量	10.08 t
車長	8.99 m
車幅	2.49 m
車高	3.485m
主な用途	貸切



※ジェイ・バス(株)HPより